



新型コロナウイルス問題について

新型コロナウイルス問題が日本で報道されるようになってから、3カ月が経ちました。時々刻々変化する事象に対応するため、本学も、各部ごとに、また法人全体で定例・緊急の会議を重ねました。その過程でいくつかの重要な学事日程を変更しましたし、また今後の趨勢によっては変更を余儀なくされることも出てくるかも知れません。専門家も誰も確たる見通しはもっておらず、ウイルスの感染状況が何時終息するかも判らない、ワクチン開発まで向こう1年乃至1年半はかかるということです。この原稿を書いている4月2日、夜のニュースが東京都教育委員会や神奈川、横浜の県・市教委が公立学校の新学期の授業開始の延期を決定したと伝えています。

『学園だより』にも、これまでの私達の判断とこれからの行動を記録上遺しておきたいと考え、紙幅の許す限り、その断片を認^{した}めておくことにしました。

私達が中国の武漢で猛威をふるい始めた新型コロナウイルスを話題にし始めたのは、1月28日の全学連絡協議会のことでした。私の友人に欧州、ロシア、北米、南米に詳しい者がおり、彼等から日本及び日本人の意識及び対応は甘いと異口同音に聞かされていたので、私も、動きが半月ばかり遅いように感じると口にしたことがありました。とはいえ、かくいう私自身の意識も、まだ素朴なもので、グローバル化の時代にはヒト・モノ・カネ・ジョウホウだけでなくビョウキもまたそうだろうから、春節を控えた中国大陸からの流入者を出来るだけ早く止めてほしいといった程度のもに過ぎませんでした。

注視から行動へと局面が一段変わったのは、学生諸君の卒業旅行等が始まる2月初旬のことです。学生センターと保健センターが協同して「新型コロナウイルスに関して(注意喚起)」という形でホームページ上にアップしたのは、2月10日のことでした。その頃は、私達はなお、学生・生徒・児童・園児にとっても、学校にとっても大切な卒業式を出来れば実現したい方向で模索・検討していましたが、ターニングポイントは、政府の方針やウイルス拡散の状況、また対外的な調整のタイムリミット等を見計らいながら迎えた25日16時から年度最後の全学連絡協議会でした。ここで、大学の卒業記念パーティーの中止や各部の卒業式の大幅な縮小・変形他、大よそのことが決定しました。更なる緊張が一気に高まったのは、同日の夕刻から流れ始めた政府対策本部の「ここ2週間が抑え込む瀬戸際」「クラスター感染の回避」という方針を受けてのこと、27日18時30分の安倍総理の「全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校への休校要請」の緊急会見後、翌28日10時30分から岩瀬キャンパスで総務部長、フロントに立って差配している学生センター長及び学生課長同席の併設校四部長の緊急会議を、引き続いて12時15分から大船キャンパスで入

試・広報センター長及び学生課長同席の緊急学部長会議を開き、16時、その概要を幼稚部、初等部、中等部、高等部、大学部、そして法人の各ホームページで発表しました。

これにより、卒業式については、3月1日の高等部はクラスごとの卒業証書の授与、保護者には不参加を求め、学園長と部長の館内放送を通じてのメッセージの伝達、在校生については休校の措置、14日の大学部は鎌倉芸術館での式典の中止とクラスごとの証書の授与、18日の初等部は政府発表が3月2日以降の休校要請でしたので、同様に2日より休校、卒業式は開けないということで、証書の授与については時間差をつけて個別的に手渡すといった方法へ切り換えました。10日の幼稚部だけは、幼稚園が総理要請の学校種に含まれないことや低学齢期の教育機関のもつ特別な事情を考慮して、場所を大船キャンパス多目的ホールから松本講堂に移し、時間・形態・人数を縮小した卒園式を実施、通常のエデュケーション活動も継続して行いました。

ただ、卒業関連行事が終わって、既に新学期に入っているわけですが、劇的な変化は期待出来ず、むしろ状況は一層厳しくなっている。

3月29日、京都市が市内の大学に学生の春休みの海外渡航を感染源とするクラスターが発生した可能性が極めて高いと発表しました。東北の女子大学の卒業式が併設校も含め全て前日中止に追い込まれたのは、教員の海外観光旅行が原因でした。こうした感染から発症の2、3週間の只中にある渡航経験のある学生が本学にいないとは限らない。そこで、学生の海外渡航は事前の届け出を建て前としていますが、今一度徹底を図るため、アンピックを通じて春休み中の海外渡航の有無について一人ひとりに確認を取ることにしました。学生諸君も事の重大さを十分認識してくれているからでしょう、大方の学生からは瞬時に報告が寄せられたそうです。

私達は、学生に不利益が生じるという理由から、出来るだけ通常の学事日程を実現したいわけですが、逆にそれをする事によって学生に甚大に不利益をもたらすということも真剣に考えなくてはならない、今は兎も角政府挙げて危機感をつのらせている感染者の爆発的増加^{オーバーシュート}の発生が最高度に高まるこの4月の業務を可能な限り先送りにさせるため、大学部は本格的な授業開始を5月のゴールデンウィーク明けに延期しました。

その間、学生諸君、特に新入生の皆さんには教務上、生活上の不安も大きいと思いますので、自発的に登校する学生に学生相談室を初め各部署を基本的に機能させる予定ですし、クラスアドバイザーやゼミナール担当者からメールや「manaba（日常的な連絡事項から講義の予習・復習資料まで送信出来る双方向のクラウドサービス）」を通じて、また中・高等部は「Classi」で、初等部は「Office365」で、各教員から個別的なコンタクトを取らせて頂くことになっています。

表には見えない保健センターの専門的知見の提供、健康診断業者との折衝、消えていった教務部の学事日程の組み替えや時間割の再編、実習施設との調整、仮に都市封鎖^{ロックダウン}が起ころうとしても、教職員への給与や取引業者の支払いを滞らせてはならない経理部や、一から十まで全てを支える総務部他の努力もありました。ただ、当の教職員もまた家族を抱え、高齢者ほ

ど感染するリスクが高いということから、可能な限りシフト勤務とテレワークを取り入れてもらうことにしました。

まだまだ授業担当者の意識改革、システム改革を進めなくてはなりません。この世界規模の危機に際会し、通常授業を補完する遠隔授業の実施に向けて総合的な調整を図らなければならないと考えています。現在日本の政策科学の第一人者である学術研究所の山本清教授が「教職員・学生一体となって、この危機に対処する意識と行動が必要」と激励のメッセージを寄せて下さいました。中世のペストも、近世の天然痘も、近代のコレラも、その後の文明の在り様を様変わりさせましたが、今次のコロナも、今後の教育の在り様を劇的に変えていくことに違いありません。こういう時こそ、私達は協力し合い、各部・各位支え合って、鎌倉女子大学の底力を見せようではありませんか。

[>前のページへ戻る](#)